

会議名 (審議会等名)	平成16年度第2回 川西市青少年センター運営委員会		
事務局 (担当課)	教育振興部 青少年センター 内線(4500)		
開催日時	平成16年11月29日(月) 10:00~11:50		
開催場所	川西市ふれあいプラザ3階 会議室		
出席者	委員	村木 修、梶田忠勝、野口岳志、長船幸夫、中嶋 守、野原 孝 規矩大定、森田文英、森脇朝生、小島澄江、嶋崎 豊	
	事務局	仲 義弘、元井悦夫	
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	開会 1. 運営委員の委嘱について 2. 会長あいさつ 3. 協議事項 (1) 平成16年度川西市青少年センター事業中間報告について (2) 川西市青少年補導委員の選出について		
会議結果	協議事項は(案)どおり了承		

## 1. 運営委員の委嘱

センター運営委員として、川西市議会の文教公企委員長がその任にあたることとなっているが、10月26日付で新たに梶田忠勝議員が選出されたので、青少年センター運営委員会の会長の村木修川西市教育長から委嘱状が交付された。なお任期は平成16年10月26日から平成18年3月31日までの間とする。

## 2. 会長あいさつ

## 3. 協議事項1

<事務局説明> (1) 平成16年度川西市青少年センター事業中間報告について  
質疑応答

(委員) 奈良で児童が誘拐され、悲惨な姿で発見されるという状況となったが、今や学校も青少年センターもその対応が難しくなっているのではないか。この種の事案について、どのように情報が流れるのか教えて欲しい。

(事務局) 様々な情報は、学校からもたらされることが多く、児童生徒の安全確保に必要な情報については、全て警察に再確認している。また、緊急性のあるものは、教育委員会内で情報を再度確認し、近隣校にも情報伝達を行っている。ただし、学校から入ってくる情報で、警察に届けられている情報であっても、各地で事件性のない情報も沢山あり、いたずらに児童生徒を不安げにあおることのないよう注意している。

このような中で、警察から児童の安全確保に必要な情報として学校園に通知して欲しいと提供されたものは、川西市子どもの安全ネットワークで情報を流すこととする。

今回の奈良の事件を受け、川西警察から11月19日地域安全ニュースを学校に配布して欲しいと言われたので、子どもの安全ネットワークに基づきそのニュースを配信した。また11月26日に県警本部が発信された防犯ニュースをあらためて安全ネットワークにのせて発信した。

(委員) 小学校では、事件翌日、全校生に注意を促した。また怖いおじさんに声をかけられ怖いと思ったときは、「こわい」ではなく「わー」という声を出す練習をさせている。

(委員) 学校に入る情報の中には、虚言による情報もあり、青少年センターもその辺を十分承知しておいて欲しい。センターが発する情報は、正確な情報でなくては学校現場では大変な混乱を招くので情報の精度をあげて発信して欲しい。さもなければ、私たち学校が頼れるものがないのでお願いしたい。

(委員) 生徒も学校を離れると地域の1住民となる。その結果被害者にも加害者にもなる恐れがあるので、社会性を高めていきたい。

(会長) 奈良の事件を知って大変ショックであった。地域住民の協力もあり、学校校門に詰所まで作って対応されていたにもかかわらず、今回の事件がおこり残念でしかたない。

(委員) 親としてもあのように地域が頑張っていたのに事件が起きたことに、持って行きようのない憤りを感じる。川西市では、以前から続けてきた通学路での親の立ち番は、交通事故を想定したものであったが、交通事情も改善され事故も減り、立ち番を減らす方向に進んできた。これをまた復活させるのは厳しい。

その様な中で、地域の皆さんに子どもの安全を任せてしまっているのは、大変申し訳なく、私たち保護者はもっと感謝しなければいけないと思う。

保護者も保護者としてもっと子どもの安全に取り組みなければいけないと思う。

(委員) 学社融合という言葉が一人歩きしているが、地域住民として子どもの安全にどのように関わればいいのか分かりづらい。私たち組織の一部として動くものはある程度どのようにすればいいのか分かるが、地域連携で市民が取るべき方策が分からないと思う。

(委員) 私の家も「こども110番のおうち」として看板を掲げている。先日中学生の女の子が、「この家は『こども110番のおうち』だから門が開いてるんだね。」と言っているのを聞き、自身ではそんな気持ちで開けていたのではなく、たまたま開いていたのであったが、それ以後、家にだれがいるときぐらいは門を開けておいてあげようとしている。

(委員) 地域で、「犬の散歩は児童の登下校にして欲しい。買い物も児童の登下校にして欲しい。」などと自治会を通じて子どもの安全見守り運動を進めている。その様な中で、子ども達が危険な目にあった場合は、速やかに地域に情報を流して欲しい。ケイタイのメールで一斉に流す方法もあると思うので検討して欲しい。

(委員) 警察も奈良の事件を受け、どのように子ども達を守っていけばいいのか模索している現状です。

警察には様々な情報が入るが、情報の第1報を出すタイミングが非常に難しい。そこには、情報の正確性、迅速性が求められているが、これが難しい。

しかし、緊急度によっては、地域の皆さんの協力が大変ありがたい。

神戸の事件以後、警察でも色々対応したが、中心は注意の喚起が中心となっている。10月に地域安全運動として大和地区内で学校の下校運動を行った。

下校先を地域別に4～5人のグループに分け、地域の大人の方が付き添い下校する体制を作った。しかし、これも毎日実施することは困難であり、結果としてこのような運動は、犯罪の抑止の為の行動であり、犯行をあきらめさすことを狙っている。

(委員) 市内の学校ではCAP運動を行っている。今まで、安全は人任せにしていたが、子ども自らが生きる力を育む一環として、アメリカで開発されたプログラムをつかって何が起こるかと言うことがわかる訓練をおこなっている。

そんな中で、子どもの安全に関して、様々な器具があるが今回のように警報機などの器具が役立つ間もなく被害にあう事件は多いのではないかと。

アメリカでは、性犯罪者について情報が公開されているので子ども達は自分の身を守りやすくなっているが、日本ではそれは不可能である。結果として自分の安全は自分で、子ども達はやはり保護者が守らなければならない。

(会長) 次回の会までに次の点について検討してもらいたい。

- 1 , 子どもの安全に関して連携を実効性のあるものにするにはどうすればいいか。
- 2 , 住民の力を借りて、いざなっている状況を具体的に表して欲しい。

協議事項 2

<事務局説明> (2) 川西市青少年補導委員の選出について

質疑応答

(会長) 特別補導チームの構成についてはどのように考えているのか。

(事務局) 現補導委員の皆さんの中には、平日昼間の活動が困難な方もおられ、反対に夜とか日曜日などは協力できるという方もおられる。また一方、地域で補導委員ではないが青少年の活動に理解を示され、様々な分野で活動されているかたもおられ、このような特別チームを創設したときの協力が可能かどうかの打診も行ったところ好意的であったので様々な人々に集まってもらえると考えている。

- 4 その他 次回の第3回のセンター運営委員会は3月頃を予定すると事務局から説明し、了解された。

6 . 閉会